

# 平成19年度 事務事業評価表

	コード	H19-H-03
事務事業名	文化協会補助金	主管課局
		担当名
		教育委員会事務局 公民館図書館担当

## 1. 事務事業の概要

計画体系	(章)	4. ふるさとを育む人と文化のまちづくり			予算 費 目	(会計)	一般会計
	(節)	4-3 いきいきとした生涯学習の充実				(款)	教育費
開始・終了年度	(開始)	昭和53年度				(項)	保健体育費
	(終了)	-				(目)	公民館費
事業の種類		自治事務(任意)	自治事務(義務)	法定受託事務			
根拠法令等	補助金等の交付手続等に関する規則						
統合の検討可能な 関連・類似事業							
内容と目的	町内における文化団体27団体431名が参加し、団体の連絡調整をはかり地域文化の向上に資することを目的とする文化協会の育成のための補助。						
現状と結果	文化協会は、文化祭等の自主事業を積極的に展開しておりまた、加盟27団体の自主的な活動を支援している。						
課題と改善	会員の高齢化が課題であり、若者が参加できる機会を積極的に進める必要がある。						
住民意見							
対 象 数	団体数	平成16年度	平成17年度	平成18年度			
		24	25	27			
	会員数	354	395	431			

## 2. 経費

		平成16年度	平成17年度	平成18年度	
事業費 (千円)		700	1,000	1,000	
財源 内訳	受益者負担	0	0	0	
	国・県支出金	0	0	0	
	その他特定財源	0	0	0	
	一般財源	700	1,000	1,000	
備考					

3.1次評価

評価項目と評価の視点			評価・評価コメント			
妥当性	(1) 事業の必要度	社会環境や住民ニーズなどかの変化により事業の必要性や役割は変わっていないか	コメント	変わっていない	一部変わった	変わった
	(2) 対象設定の妥当度	事業実施の目的として対象者は妥当か特定の団体や個人に偏っていないか	コメント	妥当である	あまり妥当でない	妥当ではない
	(3) 実施主体の代替度	事業を町以外(民間や国・県など)に任せられることができるか	コメント	可能でない	一部可能である	可能である
有効性	(1) 成果の達成度	事業の実施により初期の目的や目標をどの程度達成しているか	コメント	達成していない	一部達成している	達成している
	(2) 事業の見直し度	成果の状況を踏まえ、事業内容を見直す余地はあるか	コメント	見直す余地はない	検討の余地がある	見直す余地がある
効率性	(1) 行政コストの削減度	経費節減によりサービス水準を低下させずにコストを下げるができるか	コメント	できない	検討の余地がある	できる
	(2) 効率性の向上度	事業の効率性を上げるため他の事業との統合や事務の省力化など見直しの余地があるか	コメント	見直す余地はない	検討の余地がある	見直す余地がある
	(3) 受益と負担との相関度	行政サービスの内容と負担を比較して、受益者負担の適正化の余地があるか	コメント	適正化の余地はない	検討の余地がある	適正化の余地がある
総合評価		1.見直しの必要なし	見直しの必要あり 2.改善 3.充実 4.縮小 5.統合 6.廃止			1
予算反映		1.現状どおり	2.増額 3.減額 4.廃止			1
評価理由		文化協会の育成及び各参加団体の活性化及び自主性を促進させるために必要と思われる。				

4.2次評価

総合評価	1.見直しの必要なし	見直しの必要あり 2.改善 3.充実 4.縮小 5.統合 6.廃止	3
予算反映	1.現状どおり	2.増額 3.減額 4.廃止	1
評価理由	文化振興は町として推進していく必要があり、また、文化協会及び各参加団体の自主運営を促すためにも、予算は現状維持としながら活動を充実させていく必要がある。		

5.外部意見聴取

評価に対する意見	文化振興は町の活性化につながることであり、補助金は現状維持のまま、活動はさらに充実させていく必要がある。
----------	--